GAMAGORI MIRAI CANVAS

NEWSLETTER

Vol.03

がまごおり「みらいキャンバス」は図書館・ホール・生涯学習センターの機能を核とした、
市民の居場所・活動拠点となる場を形成する複合施設建設プロジェクト。
ただいま検討を進めている基本計画の進行状況をお届けします！

第3回 市民ワークショップ

2025 年 4 月 20 日(日) に、第3回市民ワークショップを開催しました。10代から80代まで、「みらいキャンバス」に興味を持つさまざまな市民の方 24名が参加しました。
冒頭では、第1回・第2回ワークショップの振り返りを行い、前回どのような意見が出たか、そして、現在検討を進めている基本計画の進捗について、共有を行いました。
今回は、参加者の皆さんが「やりたい！」と思ったアイデアの中から、企画化する活動を考えてもらいました。
これから開館までの間に行う活動や
開館後もずっと続く活動の種をイメージすることで、
様々なアイデアが生まれました。

テーマ

**企画書にする
「この施設やまちで
やってみたいこと」
を選ぼう**

※第3回・第4回を通して企画書をつくる

次のページからは、各グループで話し合った内容を整理して掲載しています！
これまでに多くのアイデアが出ているため、活動の内容は、各グループ1つ～3つまでに絞りました。
それぞれの活動イメージと、「話し合いのポイント」も掲載しています。

あさり チーム

企画	がまごおり暮らしコンシェルジュ　～人と人をつなげます～

その地域や施設に行かないと情報が得られないことが多い。そのために地域の行事に参加しづらかったり、地域とつながれていない人がいる。そういう人たちの相談を受けて、誰かを紹介したり、つないでいくための窓口をつくりたい。

話し合いのポイント

- これまでのアイデアを参考にしながらも、改めて蒲郡市の課題やみらいキャンバスにほしい機能について自由うに意見を出し合い、それらを市民自身がどういう企画で解決できるかを考えました。
- 全員蒲郡で生活していく上で「こういうことで困った経験がある、きっと同じように困っている人がいるからなんとかしたい」という課題意識を持っており、活発で具体的な意見交換が行われました。

あかざえび チーム

企画①	クリエイティブチャレンジ

施設の名前や緞帳（どんちょう）のデザインの募集など、市民に案を出してもらう。
施設ができたあとにもやれるような活動や、施設内で本から学び、学んだことを実際に活動し、最後に発信するという流れを実際に疑似体験するイベントを行う。

企画②	ふるさと再発見プロジェクト

バスツアーや年代別のマップの作成を行い、みらいキャンバスを起点として色々な所へ行けるようにしたい。
地元の良さや色々な場所に目を向けるきっかけにもなってほしいし、市外の方も蒲郡の良さに気づいてもっと訪れてほしい。

企画③	がまうらライトアップ

駅から敷地までの道のり、特に線路沿いを通るルートが暗い雰囲気がある。
施設ができるまでに、道のりの中でマルシェをやったり、目につくアートを作ったりして、明るくしたい。

話し合いのポイント

- これまでのワークシートを見ながら、新しいアイデアも含めて企画書にできそうな活動を付箋に記入し、似た活動ごと、連携できそうな活動ごとにグルーピングし、企画書の方向性を考えました。
- 開館前～後まで継続して続けていける活動にしたいという思いや、「学びの循環」を開館前から実証実験（疑似体験）してみよう、という視点の活動アイデアが多くあがりました。

きんめだい チーム

企画①	蒲郡マルシェ
蒲郡ゆかりの方を呼んで対談、みかんの皮を使った遊び、ロープを使ったコサージュ作り、蒲郡のおいしいものの提供・飲食等、蒲郡しばりのマルシェを開催。	

企画②	ソフト・ハードの情報拠点
各家庭の防災ラジオを活用し発信。いずれコミュニティFMを開局、核を施設に置く。公開収録等で、元気な情報を知ってもらう。放送内容はアーカイブする。 各地に情報発信拠点と蒲郡本棚（ハードの拠点）を作る。海や、郷土の歴史、人物探訪等のテーマで本棚をつくり、まちなかや関連施設などにも本棚を設置する。	

企画③	フィールドワーク蒲郡
図書館での宿泊、星空観察、鉱物探索や魚釣りなどを、実際に現地に行って体験する。	

話し合いのポイント

- これまでのワークシートを見ながら企画書にできそうな活動を付箋に記入し、似た活動や「これはこの中でできそう」というものを集めてまとめました。
- 市民で持っている人が多い防災ラジオを使えないかという視点からラジオ局開設というアイデアにつながりました。また、情報発信拠点とともに、本のサテライトもつくることで、前回のワークで出たキーワード「本物に触れる」とつながるアイデアに広がりました。

するめいか チーム

企画①	デジタル交換日記
学生で進路について悩んでいることが多いので、同じ学校にいた人同士でつながれる、情報交換ができるところがあったら良い。	

企画②	蒲郡笑顔アルバム
市民活動をされている方等の活動時の笑顔等の姿をみれるアルバムが共有できれば良い。 蒲郡全体で共有でき、ホームページや新聞、チラシを作る時に、市民の人も使えるようなデジタルのアルバムとし、使えるものがみんなで共有できる。	

企画③	みらキャンユーザーのためのスマホアプリを開発する
みらいキャンバスを便利に使うためのアプリ	

話し合いのポイント

- これまでのワーク、アイデア内容の共有後、各自のやりたいことを出していきました。
- 既に自らやっている活動や、日頃の悩みといったバックグラウンドからアイデアが出されました。他の人が出したアイデアに対して、自分の立場から意見を付け足すことで、さらなる広がりを追加した企画内容案となりました。

たかあしがに チーム

企画①	敷地で活動や空間を感じるプレイベント！
「施設でこんなことができる」を味わってもらうため、仮設のステージでの演奏会、子どもを対象にした読み聞かせや本の貸出、読書を行う。 飲食や市内の活動団体に出店してもらい、集まってもらった市民に施設のことを知ってもらう。	

企画②	繊維の文化を伝える はぎれを使ったアート活動・ワークショップ
はぎれを使ったアート活動等により、繊維のまちとして栄えた蒲郡の文化を伝える、継承する。	

企画③	オープンするまでのプロジェクトアイコン＆キャッチフレーズ
施設の完成まで年数があるので、今からアイコン、キャッチフレーズを作り、市民への発信物に必ず入れて、知ってもらう。	

話し合いのポイント

- 参加者同士の意見交換を付箋に書き残し、これまでのアイデアをベースとしながら活動として実現できそうなものを3つに絞り込みました。
- 施設アピールや市民への施設の周知が必要という観点から、イベント自体が施設空間を感じさせるものにするというアイデア、ロゴやキャッチコピーをこの活動の中で考える案が出ました。

めひかり チーム

企画①	子ども、若者、大人…みんなの居場所の選択肢をふやす
こどもたちだけでなく、大人も、外国籍の人もみんな居場所がない。活躍の場をみつけるなどして、みらいキャンバスが居場所の選択肢の一つになるようにする。	

企画②	知っていること(蒲郡のこと、防災など)を共有し(学びあい)、若者から次世代へつたえる学びの循環
若者の活躍に向け、学び合いにより、若者が学んだことをもっと小さい子に伝える場所にする。防災、蒲郡の歴史等、知っているようで知らない、実は大事なことを一つ一つ学び合う場所とし、そして学んだことを子どもたちに伝える企画ができると良い。	

企画③	他自治体の施設見学ツアー
先進事例をみんなで見学し、同じ情報を持っていろいろな企画を検討していきたい	

話し合いのポイント

- これまでのワーク、アイデア内容の共有後、各自のやりたいことを出していきました。
- 既に自らやっている活動や、日頃の悩みといったバックグラウンドからアイデアが出されました。他の人が出したアイデアに対して、自分の立場から意見を付け足すことで、さらなる広がりを追加した企画内容案となりました。

第3回ワークショップまとめ（第4回に向けて）

- 各グループにおいて、これまでの意見を丁寧に振り返り、共有しながら、企画内容案を選んでいきました。中には、これまでに出てこなかった新たなアイデアが出されたチームや、ひとつひとつのアイデアをつなげてさらに広がりをもった企画内容案になったチームもありました。

- 次回は、実際に企画書を作成し、考えた企画案を実現するために何が必要かを検討することで、具体的な活動へとつなげていくことを目指します。

市民共創プラットフォームについて

これまで「やりたい！」と出していただいた意見を、みらいキャンバスの開館前から実際にやってみて、開館後も続けていけるような市民共創のプラットフォームづくりを検討中です。今回、ワーク2として、チーム内で市民共創のプラットフォームについて、参加してみたいか、チームリーダーをやってみたいか、活動の頻度、どういったサポートがあると活動しやすいか等を話し合ってもらい、最後にアンケートを実施しました。

話し合いの中で出た意見

● 関わり方について

- 既に自身の活動を持っているため関わりを深く持てるかどうか／会社、学校があるなかでどこまで関われるか／ゆるく参加したい／ボランティアでも良いが、自分が使えるものがリターンとしてあると良い

● 共有・連絡について

- LINEオープンチャットやオンライン会議等を取り入れ、作業自体は個々でやる／情報共有があると、お休みしても次から参加できる

● 拠点について

- 場所が重要。敷地にも近く、皆も立ち寄りやすいところが良い／イベント時だけでなく集まれる、話し合える場所が必要／ちょっと集まる会議室を借りること自体にハードルがあるため、気軽に集まれる場所がほしい／場所を借りなくても思いついたら行ける「しゃべり場」が必要だが、行っても誰もいないと意味がない／場所が持てるなら、そこで企画内容の一部を開始することも考えられるが、常に人が待機しているというのはハードルが高い

● サポートについて

- 企画に必要な人へのツテ、貸してくれるもの一覧、バックアップ組織が必要／アドバイザーに毎回参加してもらい、手戻りがないようにしたい／やりたいことに合わせて適切な協働相手をマッチングしてほしい。市民の活動をよく知るコーディネーターにいてもらいたい

● 体制・仕組みについて

- 活動における安全を保障する仕組みが必要／資金繰り、やる気の継続性、仲間づくり、ハードルの低い市民参加方法が必要

● 費用について

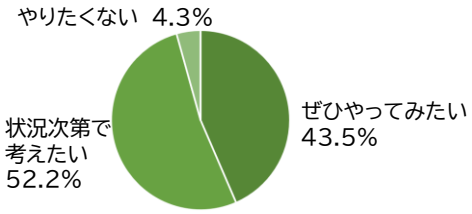
- 収益部門、コストの回収を不安視

など

市民共創のプラットフォームに関するアンケート結果

回答者：23人

● 市民共創のプラットフォームでの活動が始まったら参加したいと思いますか。(1つに○)

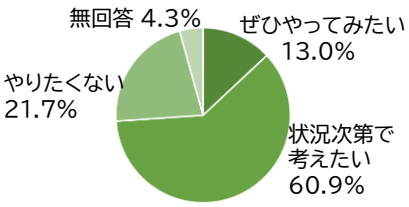


●「ぜひやってみたい」理由
実現してほしい企画がたくさん出たので、関わりたい／自分の活動にかかわることで、「みらいキャンバス」に繋がることはぜひやってみたい／大きな施設ができるまでの過程に関わりたい　など

●「状況次第で考えたい」理由
自身の仕事や家庭との兼ね合い　など

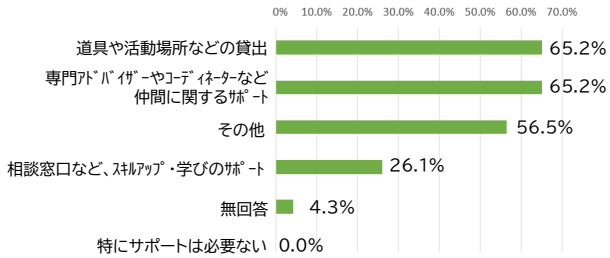
●「やりたくない」理由
何をするかよくわからない

● チームリーダーに挑戦してみたいと思いますか。(1つに○)



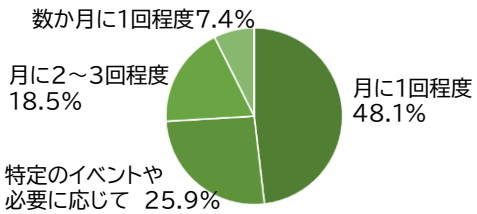
●「状況次第で考えたい」理由
まだ全体的なイメージが明確ではないので、もう少しやっていく中で考えたい／どの程度の責任感なのか／みんなで勉強／複数リーダー　など

● 市民共創のプラットフォームにおいて、どういったサポートがあると活動しやすいと思いますか。(複数に○)



●「その他」の具体的な内容
情報収集や情報発信を手伝ってほしい／デジタル技術を学ぶ機会／定期的に見守る人／助言してもらったりしたい　など

● 参加する場合、どのくらいの頻度が望ましいですか。(1つに○)



※週に1回以上は0.0%

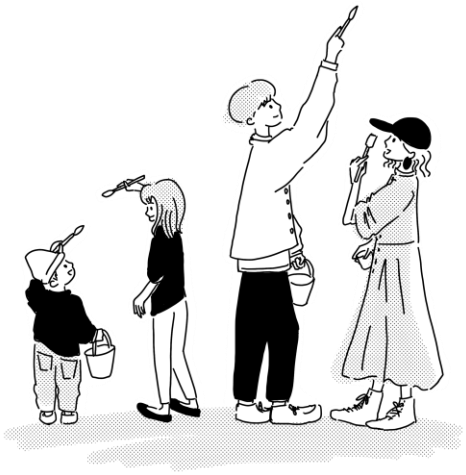
● その他、自由意見

活動のアイディアを実現させるための骨組みづくりが1番大事だと思うし、大変

ビデオ通話もしくはLINEオープンチャットなど文字だけで済む内容であれば利用する

など

アンケートで得られた結果は、今後のプラットフォームづくりの検討に活かしていきます。
第4回では、今回検討した企画内容を企画書にまとめていきます！



［発行］蒲郡市教育委員会教育政策課
TEL：0533-66-1219
e-mail：mirai-canvas@city.gamagori.lg.jp
みらいキャンバス係のメールアドレスができました！